

ゆりかご 園だより



2026.5.1

先日、この春に卒園した子が「保育園に行きたい」と言ってお母さんと一緒に来てくれ、しばらくのあいだ在園の子たちとあそんで元気に帰っていきました。まだ入学して2週間ほどでしたが、本人とお母さんとも少し話したなかで、小学校という新しい社会に移り、友だちや

先生との関わりかたに少しとまどいをおぼえ、その子にとっての安心できる場所である保育園に一旦戻ってきた、そんな風に私には見えました。

言うまでもなく、そのとまどいは「小学校でも友だちや先生と関わりを持ちたい」という気持ちからくるものであって、その状況をなんとかするために、自分から発信し行動した結果が「保育園に行く」だったのでしょう。このような状況の中で事態を打開するために自ら発信して行動することは大人でも難しいことですが、自分の身近な社会にしっかりと向き合おうとする気持ちが、そうさせているのだと思います。

ところで、ゆりかご保育園には開園以来、育まれてきた【保育理念】があるのですが、そこには次のように書かれています。

個人の利益だけでなく、個人が属する社会の一員として自分にも他者にも責任をもち、人間がより人間らしく生きられる社会をみんなでつくり出していくことに生きがいを感じる人間づくりをめざしたい。

「…社会をみんなでつくりだしていくことに生きがいを感じる人間づくりをめざしたい」という文章を初めて目にしたとき、私は子どもたちが話し合って何かを決めるという場面を思い浮かべました。話し合いの場面には、様々な要素が含まれており、感情に左右される部分もありますが、大人の助言のもとで意見を出し合い、何らかの結論を出していくという過程は本当に大人社会の縮図と言っても過言ではありません。時間がかかることもあるし、嫌になって参加したくないときもあると思います。でもその話し合いの中で自分の意見を述べる力をつけることは、実生活において改めて重要な価値を持つことであるように感じます。

将来への希望を持ちにくいと言われるこの時代において、社会をつくることに自ら関わっていかこうとする子どもたちの姿を、これからも私たち職員と共に見守って頂ければ幸いです。

